

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2018年冬)の結果

千葉経済センター

(公益財団法人 ひまわりベンチャー育成基金)

当センターでは、「2018年冬のボーナス予想」や「暮らし向き」について、千葉銀行40か店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

調査結果概要

1. ボーナス予想額：58万4000円(前年冬比6000円増加、同1.1%増加)

今冬のボーナス予想額は58万4000円と、前年冬の受取額(回答者の実績)を6000円上回った。予想伸び率は「+1.1%」で、冬のボーナスとしては、小幅ながら2年ぶりの「増加」予想となっている。

2. 暮らし向きアンケート調査について

暮らし向き(生活全般)については、半年前より「良くなった」(9.4%)が「悪くなった」(8.6%)を0.8%ポイント上回った。今後半年間の見通しについては、「悪くなりそう」(12.9%)が「良くなりそう」(8.2%)を4.7%ポイント上回る結果となり、過去のアンケート結果と同様、先行きについては、今回も慎重な見方がうかがわれた。

▽ ボーナスの増減予想は、「増えそう」が15.3%(昨冬14.0%)と昨冬比1.3%ポイント増加の一方、「減りそう」が10.2%(同13.2%)と同3.0%ポイント減少し、「増えそう」が「減りそう」を5.1%ポイント上回った。全体としては、「変わらない」が引き続き7割超を占めるが、緩やかな景気回復、人手不足に伴う賃金上昇の影響をうかがわせる結果となった。

▽ ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養費」、3位「ローン等の返済」で、以下「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買い物」、「交際費」の順となった。

▽ 貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」81.4%、「ゆうちょ(貯金)」7.0%、「社内預金」5.2%、「投信・株式」3.0%の順になっている。

▽ 貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」、以下「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている。

▽ 購入希望主要品目(複数回答)では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「子供服」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位に挙げている。

調査結果

1. ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」が15.3%（昨冬14.0%）と昨冬比1.3%ポイント増加の一方、「減りそう」が10.2%（同13.2%）と同3.0%ポイント減少し、「増えそう」が「減りそう」を5.1%ポイント上回る結果となった。全体としては、「変わらない」が7割超と多数を占める状況に変化はないものの、緩やかな景気回復、人手不足に伴う賃金上昇傾向を映じた結果ともみられる。

増減予想を年齢階層別にみると、30歳未満、30歳代のほか、従来調査では「減りそう」の割合が多かった40歳代でも、「増えそう」が「減りそう」を上回った。なかでも「増えそう」とした割合は、30歳未満で30.9%と高くなっている。他方、50歳以上については、「減りそう」の割合が12.6%まで低下したものの、なお「増えそう」より多い状況となっている（図表-1）。

また、「変わらない」の割合は全階層で最も多く、全体としてはここ数年70%以上で推移するなか、今回アンケートでは74.5%となった。

夏・冬のボーナス増減予想割合の推移は、（図表-2）のとおりである。

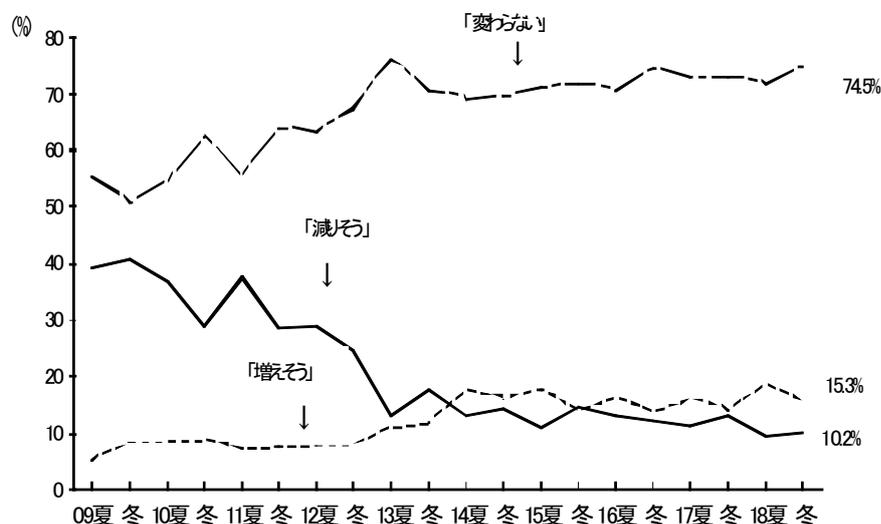
図表-1 ボーナスの増減予想(対前年比)

(構成比、単位:%)

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	16冬	13.4	12.4	74.3
	17冬	14.0	13.2	72.8
	18冬	15.3	10.2	74.5
30歳未満	16冬	26.2	8.7	65.0
	17冬	31.0	9.7	59.3
	18冬	30.9	4.5	64.5
30歳代	16冬	16.5	9.1	74.4
	17冬	14.7	12.0	73.3
	18冬	17.4	10.7	71.8
40歳代	16冬	11.4	12.9	75.7
	17冬	10.9	12.2	76.9
	18冬	13.1	10.5	76.4
50歳以上	16冬	6.8	16.0	77.2
	17冬	6.9	17.5	75.7
	18冬	7.6	12.6	79.8

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2. ボーナスの予想額

今冬のボーナス予想額は58万4000円と、前年冬の受取額(回答者の実績)を6000円上回った。

予想伸び率は「+1.1%」で、冬のボーナスとしては、小幅ながら2年ぶりの「増加」予想となっている。

年齢階層別では、50歳以上を除き増加となるなか、特に「30歳未満」の予想伸び率が6.2%と高くなっている。

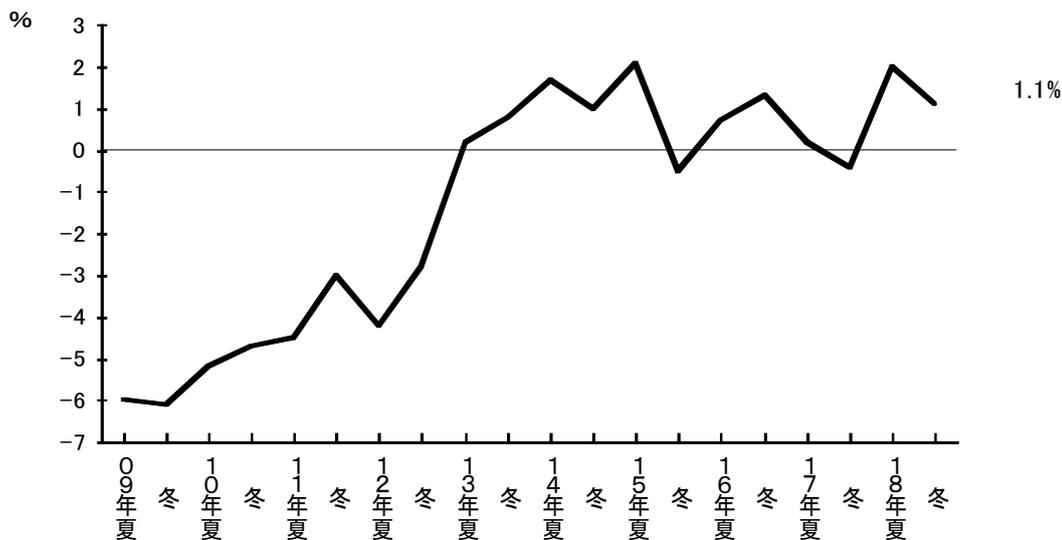
また、勤務地別でみると、予想額は都内勤務の方が県内勤務者より24万4000円高く、予想伸び率についても、都内勤務の方が1.4%と、県内勤務者の0.9%を上回っている(図表-3)。

夏・冬のボーナス予想伸び率の推移は、(図表-4)のとおりである。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年冬、%)
全 体		58.4	1.1
30歳未満		41.0	6.2
30 歳 代		51.5	1.8
40 歳 代		64.0	0.8
50歳以上		68.2	▲ 0.7
勤務 地別	県 内	53.2	0.9
	東 京	77.6	1.4

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3. ボーナスの配分予定

ボーナスの配分は、1位「貯蓄」、2位「教育・教養費」、3位「ローン等の返済」。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(45.4%)、2位「教育・教養費」(10.1%)、3位「ローン等の返済」(9.4%)で、以下「生活費の補填」(8.7%)、「旅行・レジャー」(8.2%)、「買い物」(6.4%)、「交際費」(1.1%)の順となっている。

「貯蓄」は、経済情勢にかかわらず常にトップにあり、既婚・独身、男性・女性を問わず、堅実性を重視している様子が感じられる。また、「教育・教養費」への配分予定も従来のアンケート調査と同様、上位となった。

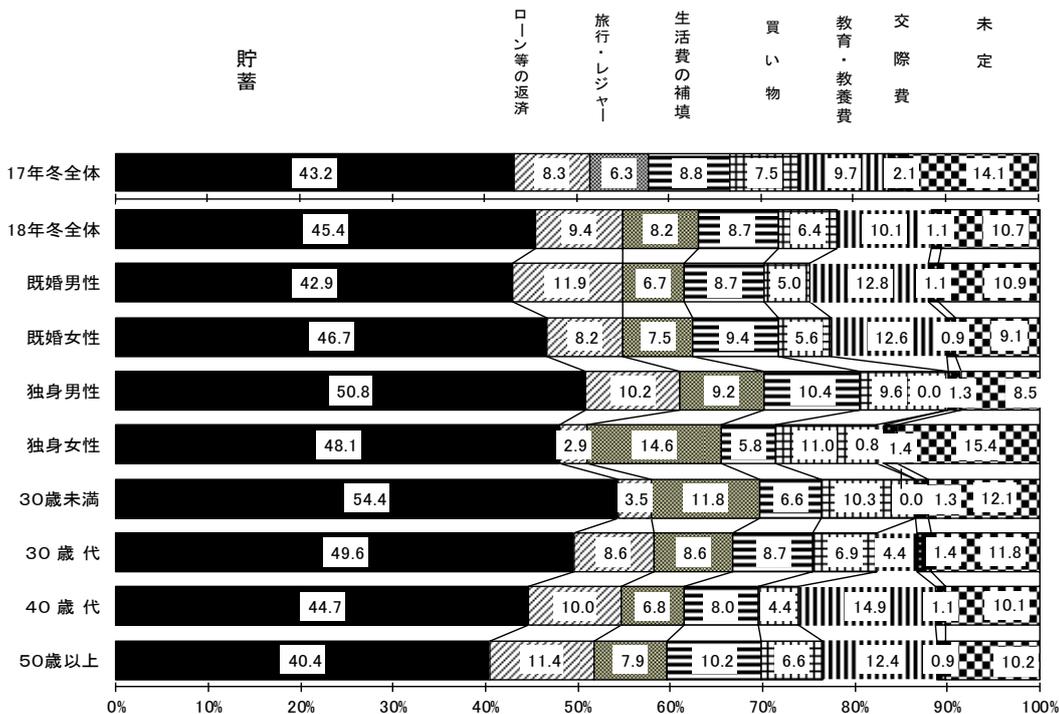
「貯蓄」については、既婚・独身別、男性・女性別で独身男性の割合が高く、50.8%となっている。また、年齢階層別では、若い世代ほど「貯蓄」の割合が高く、特に30歳未満では54.4%と高くなっている。

「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて「旅行・レジャー」「買い物」のウェイトが高く、既婚者は「教育・教養費」のウェイトが高い。また、男性は、既婚・独身とも「ローン等の返済」のウェイトが女性に比べ高く、独身男性は「生活費の補填」も高くなっている。

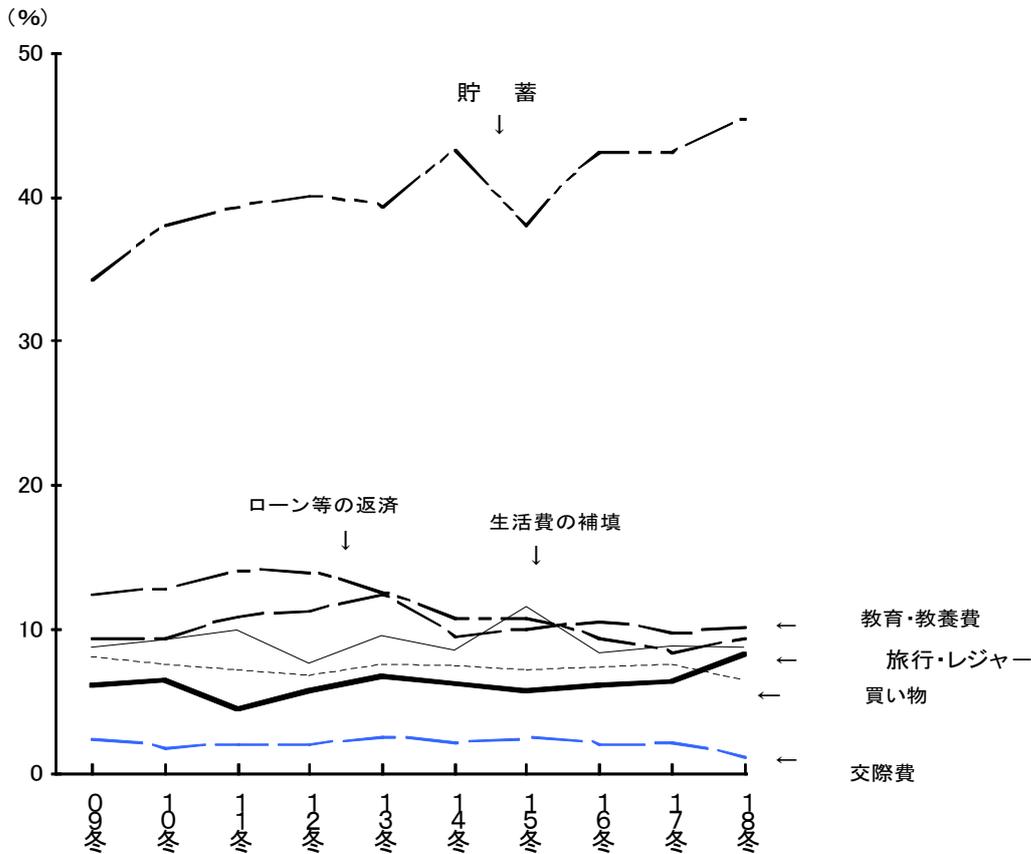
また、年齢階層別の特徴として、30歳未満は「旅行・レジャー」や「買い物」、40歳代、50歳以上は「教育・教養費」、「ローン等の返済」や「生活費の補填」への配分割合が高くなっている(図表-5)。

ボーナスの配分予定の推移(冬季のみの時系列推移)は、(図表-6)のとおりである。

図表-5 ボーナスの配分予定



図表-6 ボーナスの配分予定の推移



4. 貯蓄の内訳

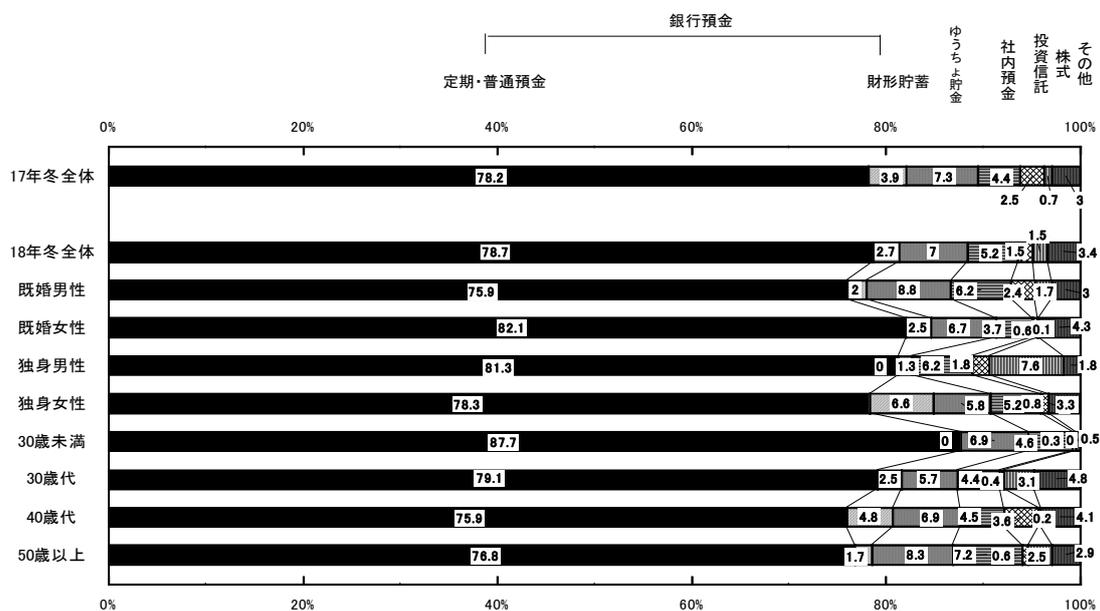
貯蓄の内訳は、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」81.4%、「ゆうちょ（貯金）」7.0%、「社内預金」5.2%、「投信・株式」3.0%の順。

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」81.4%、「ゆうちょ（貯金）」7.0%、「社内預金」5.2%の順となっており、低金利の中でも安全性の重視が感じられる。この3項目で全体の93.6%（昨冬93.8%）を占めている（図表-7）。

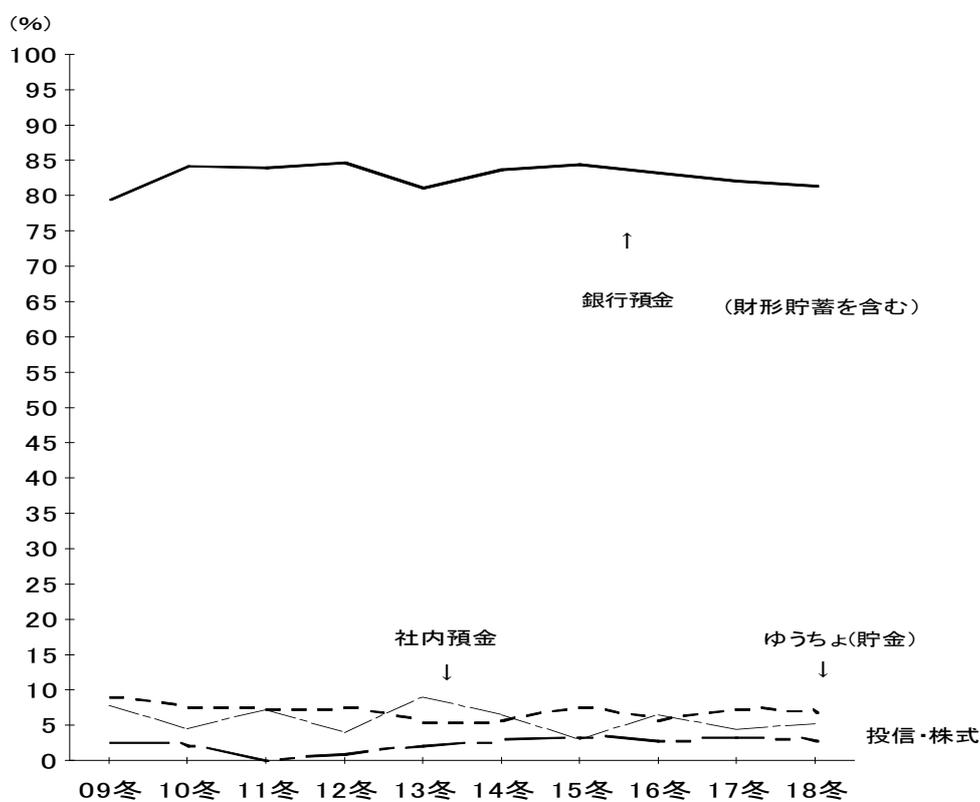
既婚・独身別、男性・女性別、年齢階層別でも、いずれも「銀行預金（財形貯蓄を含む）」の割合が大半を占めている。特に30歳未満（87.7%）独身女性（84.9%）、既婚女性（84.6%）で高いのが目立つ。「銀行預金」以外では、「ゆうちょ（貯金）」がやや高めの割合を示す結果となっている。

貯蓄の内訳推移（冬季のみの時系列推移）は、（図表-8）のとおりである。

図表-7 貯蓄の内訳



図表-8 貯蓄の内訳推移



5. 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」。

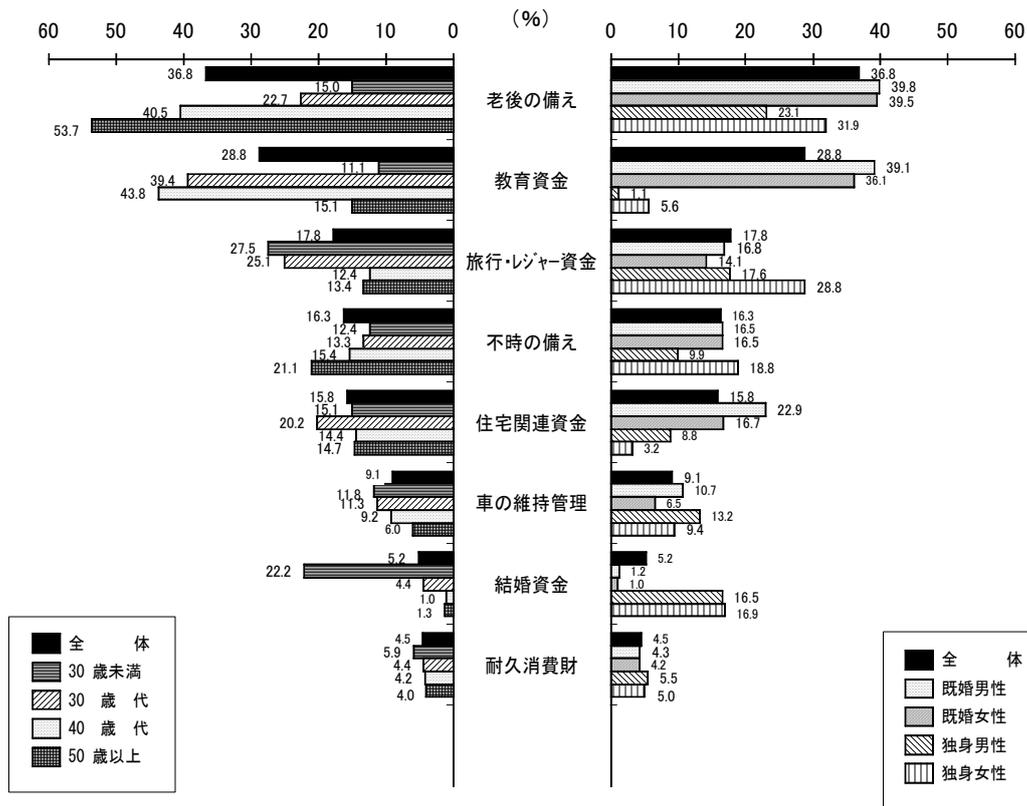
貯蓄の目的（複数回答）は、1位「老後の備え」36.8%、2位「教育資金」28.8%、3位「旅行・レジャー資金」17.8%、4位「不時の備え」16.3%、5位「住宅関連資金」15.8%で、以下「車の維持管理」9.1%、「結婚資金」5.2%、「耐久消費財」4.5%と続いた（図表-9）。

年齢階層別では、30歳未満は「旅行・レジャー資金」（27.5%）、30歳代は「教育資金」（39.4%）、40歳代も「教育資金」（43.8%）、「老後の備え」（40.5%）、50歳以上は「老後の備え」（53.7%）が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身別、男性・女性別では、既婚男性（39.8%）、既婚女性（39.5%）、独身男性（23.1%）、独身女性（31.9%）が「老後の備え」をそれぞれトップに挙げている。

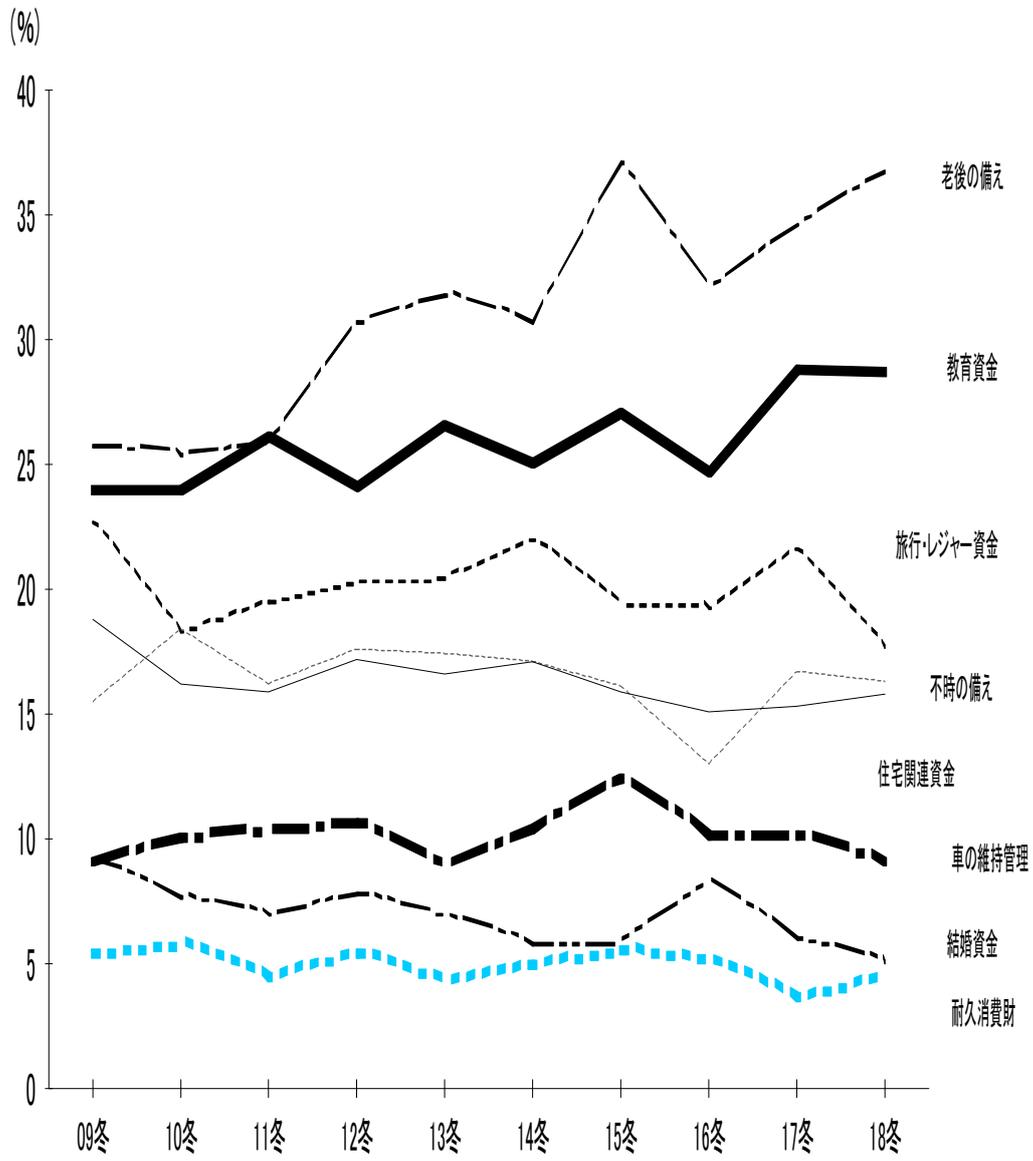
貯蓄の目的の推移（冬季のみの時系列推移）は、（図表-10）のとおりである。

図表-9 貯蓄の目的（複数回答）



注) 左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

図表-10 貯蓄の目的の推移



6. ボーナスで購入したい主要品目

購入希望品目は、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「子供服」が上位。

ボーナスで買いたい物（複数回答）の上位は、「婦人服」（26.4%）、「紳士服」（17.2%）、「子供服」（13.3%）、以下「家具・インテリア」、「鞆・ハンドバッグ」となった（図表-11）。

図表-11 購入希望主要品目

	全 体			%
	16冬	17冬	今 冬	
第1位	婦人服	婦人服	婦人服	26.4%
第2位	紳士服	紳士服	紳士服	17.2%
第3位	家具・インテリア	家具・インテリア	子供服	13.3%
第4位	くつ	くつ	家具・インテリア	13.1%
第5位	鞆・ハンドバッグ	子供服	鞆・ハンドバッグ	11.2%
第6位	子供服	鞆・ハンドバッグ	くつ	11.1%
第7位	パソコン	化粧品	化粧品	7.3%
第8位	化粧品	冷蔵庫	パソコン	6.7%
第9位	乗用車	パソコン	冷蔵庫	6.6%
第10位	冷蔵庫	掃除機	掃除機	5.6%

（複数回答、単位：％）

既 婚 男 性		既 婚 女 性	
紳士服	25.3	婦人服	27.7
子供服	16.3	子供服	19.1
婦人服	15.8	家具・インテリア	16.2
家具・インテリア	12.2	くつ	8.9
パソコン	10.0	鞆・ハンドバッグ	8.5

独 身 男 性		独 身 女 性	
紳士服	56.3	婦人服	57.0
くつ	20.3	鞆・ハンドバッグ	24.8
鞆・ハンドバッグ	9.4	化粧品	21.5
家具・インテリア	9.3	くつ	14.9
ゲーム機・ソフト	7.8	家具・インテリア	10.7

7. 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

（1）収入

半年前との比較で収入が「増えた」との回答割合は19.9%。これに対し、今後半年間の見通しで「増えそう」との回答は12.4%と、7.5%ポイント低下した。一方「減った」の12.9%に対し、今後「減りそう」は11.9%と、1.0%ポイント低下した。

収入については、まだ明るい見通しが広がる状況に至っていないようにみられる。

（2）消費支出

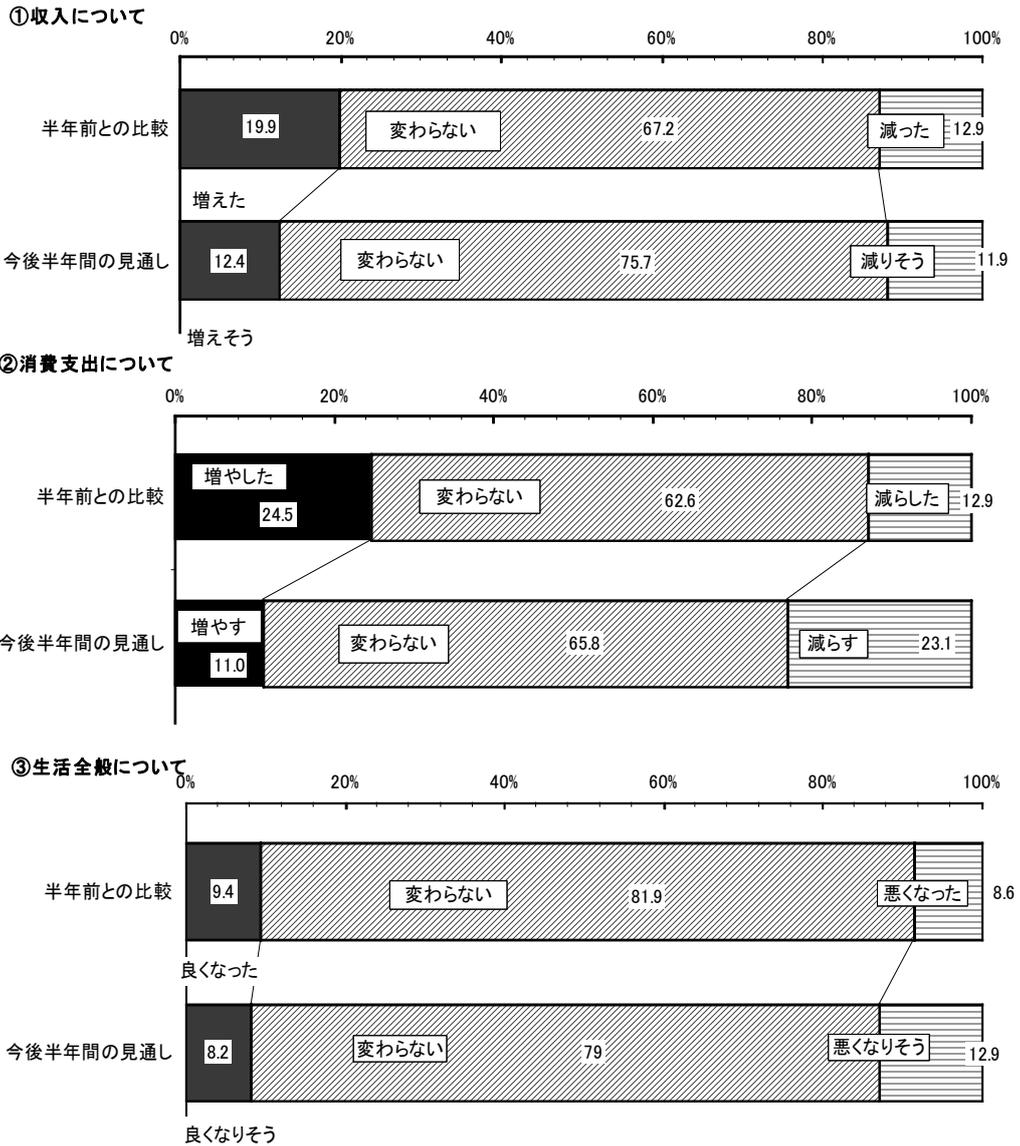
半年前との比較で支出を「増やした」との回答割合は24.5%。これに対し、今後半年間の見通しで「増やす」とした回答は11.0%と、13.5%ポイント低下。一方「減らした」の12.9%に対し、今後「減らす」は23.1%と、10.2%ポイント上昇した。

消費支出については、先行き慎重なスタンスを崩していないようにみられる。

（3）生活全般

暮らし向きについては、半年前より「良くなった」割合（9.4%）が「悪くなった」（8.6%）を0.8%ポイント上回った。また、今後半年間の見通しでは「悪くなりそう」（12.9%）が「良くなりそう」（8.2%）より4.7%ポイント高く、過去のアンケート結果と同様、今回も慎重な見方に変わりはみられなかった（図表-12）。

図表-12 暮らし向きの実感と今後の見通し



回答者の構成

(人)

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	15	67	115	130	327
既婚女性	22	77	139	144	382
独身男性	49	20	13	9	91
独身女性	67	39	39	15	160
計	153	203	306	298	960

アンケート調査実施要領

- | | | | | | | | |
|----|---|-------------------------|---------------|--------|------|---|--------|
| ①方 | 法 | 千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施 | | | | | |
| ②実 | 施 | 日 | 2018年10月1日～5日 | | | | |
| ③対 | 象 | 地 | 域 | 県内全域 | | | |
| ④対 | 象 | 人 | 員 | 1,000人 | | | |
| ⑤有 | 効 | 回 | 答 | 数 | 960人 | | |
| | | 有 | 効 | 回 | 答 | 率 | 96.0 % |